

言葉や形にできない知 「暗黙知」

先日リレー講座にご来講いただいた経営学者の野中郁次郎先生によると、人間が有する「知」には、知識、論理、科学、技術など言葉あるいは形にできる「形式知」以外に、言葉や形にならない「暗黙知」なるものが存在するそうです。

既存の知識や常識を打ち破る新しい価値（イノベーション）を産み出すには、「形式知」のみでは不十分で、「暗黙知」からほとぼしり出る直観や閃きが必須だということです。「暗黙知」は、さまざまな出会いや体験の中で感動し、喜び、あるいは悩み、唇を噛む、そんな生きざまを通して知らず知らずに関々の内に醸成され蓄積されます。要するに、「暗黙知」はきわめて個人的なものであり、したがって個性の源泉といってよいでしょう。

学生諸君には長崎大学で、一般教養や専門分野の知識や技術などの「形式知」を学び修得するとともに、「暗黙知」の幅と奥行きも大きく拡げてほしいと思



います。それが大変容の時代=21世紀を生き抜くための大きな糧となるはずで

す。そのためには、美しいものに感動し、多様な人間と触れ合い、未知の体験をする機会をできる限り多く持つことです。要は、好奇心と想像力と行動力を駆使

して、臆することなく、さまざまな未知の世界のドアを叩いてみることです。そんなチャレンジの最たるものが、日本を飛び出し異文化環境に身を置き、学び、かつ生活してみるのだと思います。海外留学が語学や新しい「形式知」の修得に有効であることは言うま

でもありませんが、非日常そのものの異郷での生活は、君たちの「暗黙知」を未開の領域へと誘う刺激に満ち満ちたものとなるはずで

片峰 茂

CONTENTS

長崎大学広報誌
[チョーホー]
Choho Vol.60

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌Choho vol.〇から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

学長室だより	言葉や形にできない知「暗黙知」	1	表紙のはなし 今回の特集のために各学部から集めた留学写真の中からいくつか組み合わせました。 写真左から、ヨーロッパの環境問題を学ぶために行ったスウェーデン、グローバル・ビジネスの研修で行った米国、タイ、右は感染症研究でフランスに留学した学生の様子。
特集	長崎大学から世界へ	2	
地域で活かされる長崎大学の「知」	福島に“戻ってよかった”という声を増やしたい	13	
研究最前線	植物ポリフェノールを化学的手法で理解し利用する	15	
卒業生に聞く	才木邦夫さん	17	
グラバー図譜	アオリイカ	19	
Information	長崎大学オープンキャンパス クイズ&編集後記	21	